



温もりあふれる地域精神医療

当院は昭和47年、宮城県登米・栗原地域における初の精神科専門医療機関として誕生しました。以来今日まで、豊かな自然環境の下、温もりある地域精神医療をめざして日々努力と研鑽を重ねています。また、さらにより「療養環境の整備と社会復帰支援活動が必要と考え、平成15年度から、新病棟の建設や社会復帰施設開設の準備を始めました。患者さんが安心して地域生活を営めるようにと、訪問看護も行っています。ワットとハードがとけ合った医療と福祉を展開するために、これからも一歩一歩、道実に前進していくつもりです。

充実した医療と福祉の提供をめざして

精神科の医療や福祉には、常に人の心と向き合うことが求められます。たくさんの方々とお関わりの中で教えられ、学び、成長することできる、奥の深い領域です。医師、看護師、精神保健福祉士、薬剤師、作業療法士、栄養士など各分野の専門スタッフが連携して、ひとりひとりの患者さんに合わせたきめ細かい治療や援助を実施しています。定期的な院内研修はもちろん、意欲あるスタッフの資格取得や外部研修会への参加を積極的に支援し、研鑽の場を提供しています。また、多くの職員がコンピュータを駆使して院内の電子ネットワークでの情報伝達や意見交換を行っています。



ラベリング・トレーニング



退院に向けてさまざまなプログラムを行っています

一日も早い退院を実現するために、治療とリハビリテーションを同時に行っています。対人関係や会話など社会生活に必要な技術を向上させるSST(生活技能訓練)や、主体性、積極性を促すOT(作業療法)など、患者さんひとりひとりに応じたさまざまなプログラムを提供しています。手芸、ワップロなどの個人活動のほか、切り絵、折り紙などの共同制作、ゲーム、踊りなどのレクリエーション活動があり、より多くの患者さんに参加していただくために、適宜プログラムの見直しを行いながら、内容の向上に努めています。



SST(生活技能訓練)の風景



デイケアで行う退院後のリハビリテーション

退院の一定時間、病気の再発の防止やセルフコントロール、生活上の問題点の改善などを目的とした通院療法のひとつとして、専用施設でデイケアを行っています。これは、社会や家庭と切り離さずに、緩やかに継続的に治療を行うことで、社会で生きる力の向上を図るものです。現在の主なプログラムは、調理や陶芸、手芸などの創作活動、スポーツ、農作業、日帰り旅行などです。また、問題解決能力を高めるための話し合いや、個別の課題克服に向けての面談を行いながら、より効果的なリハビリテーションが進むように努めています。また、デイケアスタッフによる家庭訪問活動も行っています。



料理教室



「その人らしい生活」の実現に向けて

当院では、精神障害者グループホームを運営しています。グループホームは、これから地域で生活していくこととする方々が、共同生活をおくりながら、社会での自立を果たしていくための訓練の場であり、生活技術や対人関係など自立に必要な基本を身に付け、さらなる夢や希望の実現を目指すための拠点です。入居者がいきいきと、その人らしく暮らすことができるサポートを常に心がけ、実践しています。



のぞみグループホーム

